(社)日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第 40 回 LLW埋設後管理分科会 議事録

1. 日時 2020 年 12 月 10 日 (木) 9 時 30 分～12 時 00 分
2. 場所 Webex による WEB 会議
3. 出席者 (順不同, 敬称略)
 - (出席委員) 河西 (主査), 山本 (正) (副主査), 梅原 (幹事), 後藤, 野口, 三木, 関口, 山本 (修), 白石 (9 名)
 - (代理出席委員) 平井 (根本委員代理), 長峰 (井尻委員代理), 宇野 (田中委員代理), 中辻 (野口委員代理) (4 名)
 - (欠席委員) 小峯, 徳永, 久田, 宮脇, 斎藤 (5 名)
 - (欠席常時参加者) 東原, 田村, 持田 (3 名)
 - (委員候補) 千々松, 平井, 長峰, 宇野, 中辻 (5 名)
4. 配付資料
 - F14SC40-1 議事次第
 - F14SC40-2 人事について
 - F14SC40-3 第 39 回 LLW 埋設後管理分科会議事録 (案)
 - F14SC40-4 対応表 (専門部会)
 - F14SC40-5 改定前後比較表
 - F14SC40-6 埋設後管理標準本体改定案
 - F14SC40-7 埋設後管理標準附属書改定案
 - F14SC40-8 埋設後管理解説素案
 - F14SC40-9 規制面談質問事項
 - F14SC40 参考資料-1 埋設後管理標準 A3 概要
 - F14SC40 参考資料-2 埋設後管理標準説明資料
 - F14SC40 参考資料-3 第 52 回原子力規制委員会_資料 4_中深度処分の規制基準

5. 議事

(1)出席者/資料確認

梅原幹事より、委員総数 18 名中 13 名の出席があり、分科会の成立要件を満たしている旨の報告があった。続いて配布資料の確認が行われた

(2)人事について

梅原幹事より、F14SC40-2 に基づき、人事に関する決議事項、報告事項、及び承認事項に関する以下の説明があり、とくに異議なく決議/承認された。

・委員の選任【決議事項】

宇野 弘倫 (関西電力株式会社)
長峰 春夫 (大成建設株式会社)
平井 輝幸 (東京電力 HD 株式会社)
中辻 雅之 (日本原子力発電株式会社)
千々松 和正 (安藤ハザマ株式会社)

・委員の退任【報告事項】

田中 正人 (関西電力株式会社)	2020,12,10
井尻 裕二 (大成建設株式会社)	2020,12,10
根本 修 (東京電力 HD 株式会社)	2020,12,10
野口 裕史 (日本原子力発電株式会社)	2020,12,10
齋藤 健司 (日本原燃株式会社)	2020,12,10

・常時参加者の登録【承認事項】

齊藤 健司 (日本原燃株式会社)
熊谷 守 (日本原燃株式会社)

・常時参加者の登録解除【報告事項】

田村 和男 (原子力安全推進協会) 2020,12,10

(3)前回議事録の確認

F14SC40-3 の資料について、前回 (第 39 回) 議事録(案)の確認が行われ、特に議論なく正式議事録となった。

(4)埋設後管理標準の改定について

- ・No.10 で付属施設の解体撤去とあるが付属施設は主に地上施設になると思われるが、地下にも付属施設は存在するのでは? 「地上にある付属施設」のような断り書きは必要ないか? (河西主査)
⇒廃棄物埋設地以外は付属施設になるので、中深度処分施設では地下でもクレーン等の設備は解体撤去の対象になる。ここの記載は閉鎖措置の段階ということなので、クレーン等は既に撤去されているが、アクセス坑道等に残っているもので撤去しないといけないものも対象になる。(関口委員)
- ・地下にある監視に係る設備等は解体・撤去せずに埋め戻すこともあるのではと思われるが。付属施

- 設全てを撤去するのと意味合いが違うことがあるのではと懸念されるが。(河西主査)
- ⇒監視測定するものや継続的に測定するものは、すぐに撤去しないものもあるので、ここでは閉鎖措置の段階で撤去するものがあればということである。(関口委員)
- それであれば、このままの記載で大丈夫か？(河西主査)
⇒廃棄物埋設施設＝廃棄物埋設地＋付属施設ということなので、廃棄物埋設地はそのまま残るものなので解体・撤去の対象は付属施設だけではないか、というのがコメントなので、それに対応した修正としている。
 - No.13で「公衆の隔離」という表現に違和感がある。「公衆からの隔離」というような表現ではないか？(河西主査)
⇒変更案では「公衆」という記載自体を無くしている(関口委員)
 - 「3.5.10 処分空洞」は本文には無いが？(千々松委員)
⇒記載の順番を見直しているので、変更案では「3.2.10 処分空洞」となっている(関口委員)
 - No.6で「埋設地内の限定された区域とは放射性廃棄物を取り扱う区域、室等をいう。」と記載があるが、別の資料では、そのような記載になっていない。「室等」ではなく「室内」になっている。対応表に書かれている記載と変更案の記載が異なっている個所が一部ある。後ほど、確認するように。(山本副主査)
⇒コメント対応表、比較表、標準本体の記載内容に齟齬が無いか確認します。(千々松委員)
 - No.24等で「周辺監視区域」を「周辺監視区域境界付近」とするとあるが、「付近」というのは曖昧ではないか？(河西主査)
⇒日本原燃で申請を行っているが、この言葉を使用している。「周辺監視区域」は柵等で区切られた範囲全体であるが、「周辺監視区域境界」だと柵等の直上のみになる。そのため「周辺監視区域境界付近」という言葉を使用しており、それで特に問題はない。(関口委員)
 - NO.19のコメントで、「処分空洞の充填」を「廃棄物埋設地の埋戻し」に変更したとのことだが、表6には「充填」という言葉が残っていると見受けられるが、それで良いのか？「充填」という言葉を「埋戻し」に変更するという事ではないのか？(宇野委員)
⇒直し漏れなので、確認して修正した方が良い。(関口委員)
⇒全体的にチェックして修正する。(千々松委員)
⇒「埋戻し」という言葉に統一、その他の表現も確認して修正するように。(河西主査)
 - 多くの意見を頂いた田村専門部会幹事には確認しているのか？(山本副主査)
⇒説明はしている。概ね、了解して貰っている。(梅原幹事)
 - その他、コメントを頂いた委員の方には確認して貰っているのか？(河西主査)
⇒田村専門部会幹事のみである。他の方にはしていない(梅原幹事)
 - コメントを頂いた委員の方には確認をした方が良いのでは？(河西主査)
⇒専門部会の前に確認して貰うようにしたいと思います。(梅原幹事)
 - 配布資料のうち、「F14SC40 参考資料－1 埋設後管理標準 A3 概要.doc」、「F14SC40 参考資料－2 埋設後管理標準説明資料.pptx」が標準のポイントを簡潔にまとめたものであり、また、前回の専門部会で説明した資料であるため、新任の委員の方は、詳細資料を見る前に、この資料で内容を確認すると良い。(梅原幹事)

- ・専門部会の中間報告でコメントを頂いているが、この PPT 資料等はコメントに基づく修正前の資料ということで良いか？（河西主査）
⇒前回の専門部会の中間報告で使用した資料である。コメント等を受けて、どのように修正したかを資料に反映して、次回の専門部会では説明することになる。（梅原幹事）

(5)今後の予定

- ・資料の修正を行い、委員の皆様を確認して頂く。年内には修正した資料をメールでお送りする。
- ・2月の専門部会にて、コメント対応結果を報告する。
- ・専門部会で多くの意見があるか否かで分科会の開催タイミングは異なる。
- ・特にコメントが無ければ、そのまま標準委員会への中間報告を行う。
- ・したがって、専門部会でのコメントへの対応について分科会での検討が必要になった場合、次回の分科会の開催は2月下旬から3月中旬の間での開催となると思われる。

以上